



策進課
環境衛生課
政推環

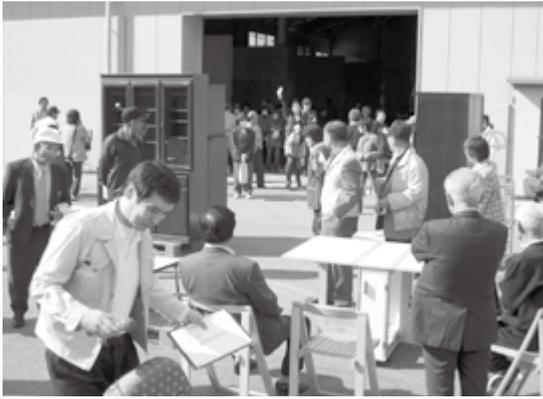
バイオマスと環境を考える一日

バイオマスフォーラム・リサイクルフェスタ

「しょうばらバイオマスフォーラム2009」と「庄原市リサイクルフェスタ」が11月14日、リサイクルプラザで同時開催されました。

バイオマスフォーラムでは、ペレットストーブ・ボイラーの展示即売やパネル展のほか、マツタケ生産と里山再生に関する講演など、見て・聞いて・ふれてバイオマスを身近に感じられるイベントに多くの人が集まりました。

また、リサイクルフェスタでは、環境ポスター・標語コンクールの表彰式が行われたほか、リサイクル品や市の不用物品の販売が行われ、多



人気の高いリサイクル品の販売

くの人でにぎわいました。来場者の中には、「自転車やタンスなど、新品同様のリサイクル品があり驚いた」といった感想を話す方もいました。



ペレットストーブなどの展示に多くの人

企画課

研究成果の活用に期待膨らむ

県大研究開発助成事業報告会

「県立広島大学研究開発助成事業報告会」を11月9日、庄原市ふれあいセンターで開催し、市民の皆さんや事業者など約80人が参加しました。報告会では、平成20年度で研究期間が満了したものを中心に、ドンダリ豚の肥育やマツタケ山の再生など4件の研究内容を報告。参加者は

研究成果の地域還元や事業化による地域活性化に向けた取り組みについて理解を深めました。この事業は、県立広島大学の研究者が所有する知的資源を活用し地域活性化を図るもので、研究内容に対して市が補助金を交付しています。

城所
東支

入館者150万人を突破

「リフレッシュハウス東城」が記念セレモニー

「リフレッシュハウス東城」の入館者が11月7日、平成6年9月のオープンから15年余りで150万人を突破しました。

150万人目は家族4人で訪れた岩崎君男さん(松江市宍道町)。く



マツタケ山の再生について発表する相沢慎一教授

す玉が割られ、指定管理者となる(株)ニュー東城の遠藤史社長から花束や入浴券(20回分)、地元産そばを使用した焼酎が贈られました。また、150万人突破を祝い、先着1000人の入館者にボディソープが配られました。

帝釈峡に紅葉狩りに来た帰りに訪れたという岩崎さんは「初めて訪れて、150万人目と言われてびっくりした。また温泉に入りに来させてもらいます」と話していました。

「リフレッシュハウス東城」は、大浴場や温泉水を利用したプール、トレーニングジム、レストランなどを備え、年間約10万人に利用されています。



遠藤社長(左)から岩崎さんへ花束を贈呈



生涯学習

先人の教育に対する情熱に触れる
庄原英学校設立125年記念行事

現在の市民会館の場所に開校した庄原英学校が、今年で設立125年を迎えるのを記念して、記念講演会と写真・資料展を11月7日、国営備北丘陵公園で開催しました。

庄原市田園文化センターの武田祐三館長が「庄原英学校設立の背景と歴史」について講演し、続いて県立広島大学の馬本勉准教授が「当時の日本の英語教育」について講演。130人の参加者は庄原英学校設立当時の教育に対する情熱に触れられた。

会場には庄原英学校校舎の写真や当時の教科書など17点が展示されました。

庄原英学校は明治17(1884)年に、庄原の有志が県北初の近代学校として設立し、英学を中心に指導。明治25(1892)年閉校しました。



会場がいっぱいになるほどの盛況

工商観光

市内へ雇用を求め58人が来場
庄原市合同就職面接会

今年で3年目となる「庄原市合同就職面接会」を11月7日、庄原市ふれあいセンターで開催しました。

これは、昨年末から悪化する雇用情勢への対策として企画したもので、市とハローワーク庄原が初めて共同で開催しました。

会場には16企業がブースを構える中、高校生8人をはじめ、20代から30代の若い人を中心に58人の求職者が来場。就職を希望する企業との面接に臨みました。厳しい雇用情勢を反映して、時間いっぱいまで複数の企業をまわる方も多く、熱気あふれる面接会となりました。



企業から説明を受ける求職者

生涯学習

トッポアスリートに学ぶ
レベルアップスポーツ教室

トッポアスリートを招き、スポーツ技術や指導力の向上を図ろうと、庄原市レベルアップスポーツ教室を10月24日、庄原市総合体育館で開催しました。

昨年に引き続き2回目となるバレーボール教室に、市内小中学生5チーム51人が参加。

新潟国体9人制ベスト4のマット女子バレーボール部の選手12人からバスやレシーブの基本技術などを学びました。

教室の合間には選手からサインをもらうなど、参加者と選手のふれあいの時間もあり、参加した石田真美さん(東小6年)は「すごい選手と一緒にバレーボールができて楽しかった。来年も参加したい」と話していました。



トスの技術を学ぶ子どもたち

性児童

県大男子学生が料理に挑戦
男性の家庭参画講座「自炊男子のススメ」

男性の家庭参画を進めるには学生のうちからと、県立広島大学男子学生を対象にした「男の料理教室自炊男子のススメ」を10月27日、庄原市保健センターで行い、3年生から院生まで6人が参加しました。

参加者は、市の栄養士の指導を受けながら、ポークチャップ、ブロッコリーのホットサラダなど4品のメニューに挑戦しました。ぎこちない手つきで野菜を切る人、手際の良い人と、料理経験もさまざまでしたが、協力して自分たちで作った料理

を満足そうに食べていました。

普段ほとんど自炊をせず、コンビニや外食に頼っているという学生が多く、「4品目も作ると段取りが難しかった。まずは手軽にできる料理から覚え、社会人になっても続けていきたい」と話していました。



レシピを見ながら奮闘する学生

健康医療

今の食事が未来の自分をつくる
庄原市食育講演会

広島文教女子大学の松原知子教授を講師に招き、「庄原市食育講演会」を10月21日、庄原市ふれあいセンターで開催しました。

講演では、さまざまな「こしょく」(弧食・小食・個食・固食・粉食)、朝ごはんの役割、お弁当箱を用いたバランスの良い食事の摂り方など、日々の食生活に役立つ身近な話題を提供し、幅広く「食」について考える機会となりました。

講演を聞いた参加者は「もつとバランスを考えて食事をしよう」「メタボにならないように気をつけよう」などと話していました。

この講演会は「備北食育ウィーク21」事業の一環としても開催。この事

性児童

お互いを尊重した関係に
庄原実業で「デートDV講座」

11月10日、県立庄原実業高校の全校生徒約400人を対象とした「デートDV防止講座」を開催しました。

講師の(財)広島県女性会議主任相談員の坂本てるみさんは、相談事例を基に創作したある高校生カッパルの物語を紹介。メールの返信をすぐにしないと怒られる、友だちよりも彼を優先させるなど、いくつかのエピソードを取り上げて、そのときの彼女の気持ちとともに「一つずつ解説し、「束縛は愛ではありません。お互いの気持ちを尊重した恋愛をしてください」と呼びかけました。

講演を聞いた生徒は、「殴ったり、蹴ったりでなくても、相手を怖がらせるようなことをするのも暴力だと知ってびっくりした」「もし友だちが悩んでいたら、ずっと気にかけてあげることが大切だとわかった」と話していました。

※デートDVとは、恋人からの身体的、精神的、経済的、性的暴力のことをいいます。



庄原実業高校の生徒も参加



「何でも相談してほしい」と講師の坂本さん